

## 付 録 7

### 第 3 次追跡面接調査の結果

## 付録7 第3次追跡面接調査の結果

**葛藤型** Aさん マレー女子(文系 No.54 5P1)

マリム・ナワール修了後、マラ技術学校職業コース

父 公務員・学校の用務員(前期中等教育)、母 主婦(非教育)

2002年9月4日

於：学校進路相談室

2002年9月5日

於：対象者の家

2004年1月8日 18:00~19:00 於：対象者の家

### 【2002年9月4日 フォーム・ファイブ時の面接】

《進路展望》この学校を選んだのは、父親が用務員をしていることが大きい。その他に、家から近いこと、兄もこの学校に通っていたことも理由だ。将来教師になりたいから卒業後も勉強を続けたいと思う。親戚にも教師は多く、性格的にも教師は合っていると思う。そのために、フォーム・シックスに進み大学に入ってから教師になることも考えられるが、そうすると長い期間待たなければならない。(フォーム・シックスに進んでも)大学に入ることができるかどうかははっきりしないから、卒業後は教員養成学校に入りたい。確かに大卒の教師の方が給料はいいが、長い期間待つ(つまり費用がかかる)ことよりは、教員養成学校に入った方がいいと思う。両親は教師になることもいいが、工場で働くのもいいと思っている。大変な努力が必要で費用がかかるような職業には就いて欲しくないと思っている。

《性役割観》家の主(ketua rumah)として、物事の価値判断が的確である必要があるので、男性が高等教育を受けることは必要である。もし高等教育を受けないと職業機会が狭まってしまい、あまりいい職業に就くことができないと思う。女性の方は、夫がお金持ちであれば、主婦になることも可能なので(性役割に)「賛成する」を選んだ。(伝統的性役割に対しても)女性が台所で働かなければならないのは昔(zaman dulu)の話で、今は変化している。教育レベルが高いのに主婦になると、それまでに費やしたコストを捨ててしまうことになる。

《リーダーシップ》マレー・コミュニティの間では、女性がリーダーになることも可能だと思うので(男性どちらがリーダーに適しているかは)「分からない」を選んだ。その他の場所に関しては、もはや変えることができないと思う。概して、男性の方が様々な障害や問題に耐えることができるし、女性よりも感情的でないので(リーダーになるのに)適している。

《職業観》教師は男女とも適していると思う。弁護士は義務を果たすことができ、話すのがうまいので男性に合う。女性は真面目なので秘書、また優しいので看護師がいいと思う。

《差別》母親がどちらかと言うと弟の方をかわいがりがちだ。でも父親は私の方をよりかわいがってくれる。どちらかと言えば、両方とも私の方の面倒をみてくれるかもしれない。多分私の方が弟よりもよく勉強するからかな。時々学校で民族的な確執がある。この前はマレー人と華人の男子生徒の間でけんかがあった。こういうことは時々ある。マレー人の間では通常男子の方を重んじる傾向にある。マレーシア社会で起こる事は多すぎて答えることができない。

(学校まで20分ぐらいの場所に住んでいる。彼女に関してではなく一般的な質問として、この学校の生徒があまりイーメールを使っていない点を尋ねると、コンピューター室があるが機能していないことを挙げた。また男子が卒業後勉強を続けないのは、面倒くさがることと試験の結果の両方でどちらか一方ではないと思うと述べた。)

### 【2002年9月5日の家庭訪問】

Aさんとの個人面接の翌日、Taman Bina Jaya という新興住宅地の自宅にお邪魔する。他の多くのマレー人生徒と同様に教師になりたいと思っているため、家庭訪問をすることにした。

#### 【2004年1月8日の家庭訪問】

[マリム・ナワールの卒業生でマレー人。マリム・ナワールに用務員として父親が勤める。2002年の第2次調査時には、学校で生徒への面接と、家庭で家族への面接を実施したが、その際「教員養成カレッジに通いたい」と言っていた。前もって、マリム・ナワール国民中等学校で、父親と再会した。父は2時半に、本人は5時か6時に家に帰るため、帰宅時間に合わせて家に訪ねる。両親、母親の妹とその子ども（対象者の姪）と兄が面接途中で帰ってくる。現在、母親47歳、父親50歳、兄23歳、本人19歳。]

《生い立ち》カンパールの病院で生まれ、タパー（Tapar）で育つ。初等学校はトゥアララン・スカツ（Tualang Sekah）、中等学校はマリム・ナワールに通った。「結婚したら出て行くのだからそれまでは一緒に住みたい」と全寮制学校やマラなどには母親が行ってほしがらなかった（そのため家から通学できる普通学校に通う）。

《毎日の生活》毎日6時に起きてコースに出かける準備をし、7時20分にはバスに乗る。8時にゴペンに就き、5時ぐらいまで勉強する。家に帰ってからは11時30分に寝る。

《進路の現実：現在裁縫コース、教員になるのは難しい、工場勤務》現在、マラ技術学校（Kemahiran MARA）のあるゴペン（Gopeng）に通う。裁縫コースの6ヶ月コースを2回受講して、だいたい1年間通う予定で、2月にはコースが修了する。その後は、非常勤の教師に応募して結果を待つ予定。最近では、教師に申請している人が多いので、すぐになれるかどうかは分からない。もちろん教師になるためには、専用の養成コースを受けないといけない。申請が通るためには、経験（pegaraman）と技術（kemahiran）が必要。もし教師になれず、長く待たなければいけないようであれば、まずは工場での仕事を探す。

《進路の現実：「食べるに足る」SPMの成績、親の希望》[同席した両親も、何でも本人のやりたいようにすればいい（suka hati）と言う。同席した、近所に住む母親の妹によると、「主婦以外で女性に合うのが教師」と言う。話している途中で、工場で働いている兄（23歳）が帰宅。兄は「SPMを受けていない」そうだ。] 対象者のSPMの成績は、「食べるに足る」成績であった。

《進路の現実：中等後教育 フォーム・シックスの怖さ》[ホームステイ先の父親から助言がある。それによると、フォーム・ファイブの後、マリム・ナワールの生徒には幾つかの進路がある。フォーム・シックス、就職、技術学校などがその主なもので、もし機会があれば高等教育機関（Institut Pengajian Tinggi: IPT）に行くことができる。]（それぞれ人気がある順を対象者は）多分、フォーム・シックスが一番で、次が技術学校、最後に就職。対象者本人はフォーム・シックスに入ることができたが、STPMでその後、ディプロマやサーティフィケートを得ることができかわからない。2年も待って、駄目だったら怖いから行かなかった。技術学校に通って、IPTにも行きたいから申請（mohon）し続ける予定。

《進路展望①学校種別 性別・エスニック集団別の相違》華人は理系に多く、SPMの後にカレッジに行く人が多いが、マレー人は政府関係の学校に進むという違いがある。男性は就職、女性は勉強という違いがあると思う。男子はお小遣いをほしがるけれど、女子は特に小遣いをそれほどほしがる訳ではないし、それよりは勉強を続けたいと思うから、そのような男女の違いが出ると思う。

《進路展望①高等教育 友人の進路と自分の希望》友達の中にはカンパーの工場で働いている人もいるし、私立カレッジに行っている人もいる。私立カレッジに行く場合は、政府のローン（例えば pinjaman MLBJ）を借りる。フォーム・シックスに進んだ友だちもいる。もしこの後、カレッジに行く機会があったら、美術教育（pendidikan seni）を選びたい。

《進路展望②職業 教師のイメージ》[多くのマレー女性が教師になりたがっている理由を聞くと]たとえば警官に女性になるとちょっと粗雑なイメージがあってあまりよくない。それに対して、教師は時間の面で子どもを育てられるなど、他の仕事よりもメリットが多い。それは誰かに言われたと言うよりは、自分でそう思うようになった。

《生涯設計③結婚・子ども》結婚は、いつするか分からないが、今は昔とは違う[叔母が言うように仕事があればいつ結婚してもいい。] 結婚相手は、家族の背景（性格がいいかどうか）、宗教、経歴（kerjaya）なんかが大事。「食べるのが十分」というだけではだめ。[最近女子の方が、教育レベルが高いが・・・と聞くと]自分は相手の教育は気にならないけれど、男子の方が気にする。子どものことは分からない[叔母がマレーだと2人や3人だと少ないと言われるから、9人でも10人でもいいと口を挟む。母親は、それはお上が言っているだけだからと反論。母親は「出会い・相性（Jodoh）が大事だ」と言う。一同うなずく。] [前と今と違う点をたずねると]もう一応勉強を終えたので、質問がもっと長いスパンのものになったと思った[と私の質問の違いを答えた。それもいいかと思ひ質問終了。]

**葛藤型** Cさん マレー女子（理系 No.8 5Sc2）

父 下級公務員（スタンダード・シックス） 母 主婦（非教育）

マリム・ナワール修了後、工場勤務

2002年9月2日 於：学校の進路相談室

2002年9月4日 14:30～15:30 於：対象者の家

2004年1月8日 16:40～17:47 於：対象者の家

#### 【2002年9月2日の面接】

《進路展望》中等学校を選ぶ際にスリ・カンパー（Seri Kampar）の宗教コースも候補にあったが、コストがかかるので行くことができなかった。それは、父親の意見による。私は、6人兄弟の一番上で、下の兄弟姉妹の面倒を見る必要がある。将来は、父親が「自分で稼いだお金は自分で使っていい（guna duit sendiri）」と言っているので働くことにする。もちろん勉強を続けることには興味があるが、今は経済的な状況から仕方がない。希望する職業は、会計。” akauntan” という言葉が小さい頃から好きだった、それが理由。もちろん高い地位であるから。ほとんど誰かと進路について話すことはないが、時々なら母親と話す。議論するというよりは、自分でどうしたいかを言うと、母親が意見を少し言ってくれる。

《性役割観》高等教育を受けなくても職業的地位が高ければ、よい夫や父親として十分に務まると思うので、高等教育に進むより、男性は就職する方が重要だと思う。女性は、夫の仕事の悩みに役立つような知識を持つために高等教育を受けた方がよい。それだけでなく、経済的に夫を助けるために仕事をするのもよい。だから、女性が家事だけをする必要はない。それでも、家事も女性にとって重要。だけど必ずしも仕事をやめる必要はない。

《職業観》女性は決断をするのがあまり得意ではないし、考えることが男性よりもうまくないので男性が指導者になった方がいいと思う。弁護士は決断する勇気、ビジ

ネスはより多くの時間が必要なので男性に適している。一方、女性はあまり難しくない職業である講師や、やさしく患者を労わる必要がある医者などに向く。(自分が希望する) 会計の仕事は簡単な仕事なので男女ともに合うと思う。

《差別》マスメディアによって差別があると伝えられるが、実際に差別だと感じるような事象を見たことがないのでよく分からない。

(学級委員に選ばれるに適したしっかりとした意見を持っている、とても話しやすい生徒である。おそらく成績もいいのだろう。女の子だからと言うよりは、家族を養うためあるいは家族に経済的な負担をかけないために働く予定である。)

### 【2002年9月4日の家庭訪問】

家は、PPRT(Projek Perumahan Rakyat Termiskin)という、政府が最貧困層の家庭に対して住宅を提供する地区にある。訪問時、祖父(居間に寝ている)、父親・母親と兄弟、従妹が家にいる。父親は魚を釣って、生計を立てている。母親は専業主婦で、結婚後に働いた経験はない。家には、テレビ・VCDプレイヤーなど電化製品が一通り揃っている。一続きの居間の奥に台所があり、従妹が料理をふるまってくれた。居間に続いて部屋が2つあるが、掃除したものをこの部屋に全て片付けたのか2つの部屋(子ども部屋と寝室)は入ることが許されない。

家庭訪問に先立つ本人との面接では、勉強を続けるのは難しいと言っていた。しかし母親によると、マレー人は「すごく成績がよければ勉強を続けるチャンスは幾らでもあるので、進学することができないのは本人のせい」と指摘するように、マレー人は成績さえよければ奨学金を得て高等教育を受けることができるため、ノルハナ自身が言っていた「家が貧しいから」というのは、経済的理由は必ずしもあてはまらないという複雑な状況にある。「勉強はとても大事。勉強しないと仕事を得ることができない」(母親は公教育を受けていないので、これまで仕事を得るのが難しかったようだ) また、「学問するのに男女関係ない」「もし成績がいいのなら大学に行ってもいい」とも言っていた。

筆者の印象としては、両親ともに高等教育を受けることには反対していない。彼女の成績如何で結果が出るのだろうか、彼女自身も高等教育を受けるために必死で勉強しようとは思っていないようだ。通常深夜の12:30ぐらいまで勉強するという本人談だが、実際には「勉強しているかどうかは分からない」(母親)。できることなら会計士になりたいと言っていたが、実現するのはなかなか難しいかもしれない。教育を受けることに性別が関係ないと言うのは、両親の本音だと思う。特に母親は自身が公教育を受けてこなかったので、教育がどれほど重要か身にしみているようである。

### 【2004年1月8日の面接】

[午前中に電話する。「仕事に行っているので、3時半まで戻らない」と母親が言う。再度電話することに。(略) 対象者の自宅で1年半ぶりに会う。現在工場で働いており、1年半前とは随分と雰囲気が違う印象。面接の途中で、両親、妹、途中で弟が帰ってくる。6人兄弟で、2歳になる末子と自分だけが女の子で、後は男の子。上からフォーム・ファイブ、フォーム・フォー、フォーム・ワン、初等学校3年生。中でも、一番下の弟が、少しだけ勉強ができる。]

《生き立ち》テロッ・インタンで生まれる。初等学校の時にスリム・リバーに、その後6年生で今のマリム・ナワールの家に移ってきた。それ以来前期・後期中等学校共にマリム・ナワールに通って今に至る。全寮制学校やその他の学校に行く機会は特になかったし、家族と一緒に住む方がよかったので普通校に通った。

《毎日の生活》朝5時半に起きて、身支度をし、6時半にはカンパー行きのバスに乗る。7時には仕事(工場のオペレーター)場に着く。11時に一度休みがあるので、そ

の時朝ごはんを食べる。再度仕事に取り掛かり 3 時半に少し休憩。昼食は、4 時過ぎに家に帰ってからとる。6 時に水浴びをして、8 時ごろテレビを見るなどして休み、10 時頃には床につく。時々、友だちと約束をして 6 時ごろに会うこともある。工場では、16 歳ぐらいから 30 歳を超えたぐらいの人が働いている。自分と同じ年頃の子と友だちになる。

《進路の現実：「食べるに足る」SPM の成績》SPM の結果は、「食べるに足りる (cekup makan)」程度だった。奨学金をもらえるほどよかった訳でもない。

小さい時は先生になりたかったが、弟や知り合いに何かしら教えてもすぐ怒ってしまっていてあんまりうまく教えることができなかった。気性が激しい (garang) ので、多分先生には向いていないと思う [母親も同じことを言う]。他に警察や消防士になりたいと思ったこともあったけど、喘息ですぐに病気になってしまうからそれもだめだと思った。

《進路展望①中等後教育 フォーム・シックスの怖さ、親の希望》まだ勉強を続けたい意志はある。フォーム・シックスにも進もうと思えば進学できたかもしれないが、その後の STPM で希望するところに入れなかったらと思うと怖くて入れなかった。フォーム・シックスに進んだ友だちと、カンパー行きのバスで一緒になることがある。その子は、ビジネス関係の教科書を持っていた (から、フォーム・シックスではそういう実務的な分野を学ぶと認識)。

《進路展望①中等後教育 親の希望》 [母親が冒頭で、「もっといい仕事についてほしい。工場よりもっといい仕事に」と言った。それと同じ口調で「ディプロマをとっても工場にしか勤められないのだったら進学しても意味がない」と言う。本人は「勉強を続けたい」と思うが、コストの問題がある。 [だが、以前面接した時は働きたいと言っていたがと聞くと]あの時は、仕事をしたことがなかったから仕事は簡単だと思っていた。でも仕事を始めた今は勉強の方が簡単だと思う。前はあんまり考えてなかった。勉強するのはあんまりストレスがたまらないからいい。

今日も友だちとしゃべっていたようにカレッジに行きたい。建設業に興味があるので、たとえばすらんゴールにあるティムール技術カレッジに行きたい。ディプロマをとるためにコストがどれだけかかるか分からない。でもまだあと一年あるので、お金を貯めたい。

《進路展望①学校種別 性別・エスニック集団別の相違》仕事を始めた今も、別に男女の差別は感じないし、見たこともない。

《生涯設計③結婚・子ども》今ボーイフレンドは特にいらないが、23 歳から 25 歳ぐらいで結婚できたらいい。知り合いに 18 歳ぐらいでもう結婚した人がいて、(その知り合いを見ていると) しなきゃいけない仕事 (tanggungjawab) が増えて遊べないみたい。18 歳なんてまだ若い。若いのに遊べないなんて・・・。

たとえば性格やふるまいがよい人で、仕事 (地位と給料面で) よいこと。 [教育はとたずねると]学があっても仕事がなければ意味がない。熱心に仕事をして十分食べていけて、慈しんでくれる (cahaya kesayagan) 人がいい。

[あまり十分なコミュニケーションをとれたとは思わない。それでも、両親が席を外すと少しずつ話してくれるようになった。後期中等学校卒業後に SPM の結果が判明した後、クラスや学校で一堂に介するということがないので、友人の進路は分かる人と分からない人がいる。今の仕事に満足している訳ではなく、できれば勉強したいと思っている。でも、この後新たに教育を続けられるかはまだ見通しが立たない状況のようだ。]

**受容型** Gさん 華人女子（文系 No. 69 5P1）

マリム・ナワール修了後、私立カレッジ

父 鉄工場労働者(kilang besi)（初等教育）母 主婦（非教育）

2002年9月3日 12:10-12:25 於：学校の進路指導室

2002年9月4日 於：対象者の家

2004年1月10日 10:00~10:32 於：対象者の家

### 【2002年9月3日の面接】

《進路展望》学校まで徒歩で15分と家から近いので何かに乗る必要がないから、マリム・ナワールに行くことにした。卒業後は進学したい。両親が自分自身のためにも高等教育に行った方がいいと薦める。まだはっきりと決めていないが、私立カレッジに行って、会計学を学びたいと思っているので、今コンピューターセンターでインド人の先生にコンピューターを習っている。その後は、興味があって会計士になりたいけれど、まだはっきり分らない。進路は、父や母、友人やおじ・おばと話す。カレッジに行くことは両親も賛成してくれている。周囲の友だちもKLのカレッジに行くと思う。

《性役割観》オープンマインドになることができるから、男性は高等教育に行った方がいいと思う。固定的性役割観には「反対」。女性も男性と同様に働くことはできる。もし夫が仕事をやめるように言っても続けたい。

《リーダーシップ》家とマレーシア社会では男性がリーダーになるのに適している。でも学校とコミュニティは分らない。学校は校長先生が女性だし、生徒も男女一緒だから。コミュニティでは商売をする時、何でも男女は一緒なのでこちらも分らない。

（とても前向きでまじめに勉強する様子が伝わってくる。マレー語でのインタビューにも言葉を選びながら丁寧に説明をしてくれた。まだ進路について十分決めかねているところがあるようだが、将来は性別関わらず働きたい。そのことが自分にとってプラスになると、両親からの助言もあってそう考えている。）

### 【2002年9月4日の家庭訪問】

マリム・ナワールの中心部にある郵便局の裏手に、家はある。隠れ家のような雰囲気を持つ家。学校から車で数分・徒歩15分ほどの場所である。他に家庭訪問した人の中でも、比較的貧しさがうかがえる家のたたずまい。知り合いの住所を借りている。母親は新聞を読むことができるが、書くことはできない。だから子どもの教育は何よりも大事だと思っている。母親が特に注意しなくても本人も弟もよく勉強する。父親は朝の6:00から夜の6:00まで工場で働いている。母親とは、面接でマレー語を話すのが難しいが、調査対象者を介すと男女の別ないと思っているらしい。対象者の成績は悪くないので、私立カレッジ(kolej swasta)に行きたいと思っている。祖母が一人。壁には、移民してきた当時の家族の写真（ハンサムと美人が多い）。筆者のマレー語があまり通じなかったので、多くの質問はできなかった。

### 【2004年1月10日の家庭訪問】

[マリム・ナワールに通っていた華人で、第2次調査時（2002）に一度家を訪れた。文系では一番のクラスで、フォーム・ファイブの後に進学することを希望していた私立カレッジに進んだ。何度か携帯電話のショートメール（SMS）でやりとりをした後、ホームステイ先からバスに乗って彼女が住むマリム・ナワールまで行く。家の場所は覚

えていた。1年半ほど経って現在どのような日々を過ごしているかを知るために、再会した。久しぶりに再会すると、以前よりもなんとなく大人っぽい雰囲気が漂う。久しぶりなので少々よそよそしい。今回は、土曜日の午前中ということもあってか、父親が在宅している。その他前回と同じく、祖母、母親、弟（フォーム・トゥー、いつ行ってもパソコンでゲームをしている）が家にいる。最初の内は父親がインタビューに聞き耳を立てているようであった。筆者自身が体調不良のためうまくいか少々不安なままインタビューが始まった。]

《生い立ち》イポーで、1985年に生まれ、3歳の時にカンパーに引っ越してきた。6歳でメソジスト学校に入り、その後マリム・ナワール（国民学校・普通学校）に入る。17歳の時に3ヶ月ほど家を離れてKLで販売のバイトをしたことがある。

《毎日の生活》平日はだいたい6時に起きて、6時25分ぐらいまでに準備を済ませ、6時半のバスには乗って私立カレッジに通う。7時半に学校で朝食を済ませ、8時から2時ぐらいまで授業を受ける。授業が終わったら家には4時か4時半までには帰る。帰ってからは水浴びした後、食事をしたり勉強したりする。以前行っていたコンピューター教室の講座は既に終わっていて、今は通っていない。夕方だいたい5時半から6時半ぐらいにはテレビを見て過ごし、8時に夕飯を食べた後はまたテレビを見て自由に過ごす。9時半か10時ぐらいには床につく。

《進路の現実：進路カレッジに進学、SPMの結果、母親の希望、経済的理由》今行っている学校・学部は、シェン・ジャイ（Shen Jai）カレッジの商業学部（School of Commerce）で2年のアカウントコースを受講している。4月にはもう1年になるが、学校の勉強はいまだに難しく大変。[以前KLに行きたいと言っていたと伝えると]母親がKLはお金がかかるので駄目と言った。SPMの結果はよくて、数学やマレー語、英語など5科目が通った。

《進路の現実：フォーム・シックスかカレッジか》フォーム・シックスは、もし2年後に大学に入れなかったらと思うとあまり自信がなくて進むことができなかった。（今思うと）カレッジの勉強はフォーム・シックスより実践的でいい。難を言えば、バスの乗客が帰りにいっぱいなことぐらいかな。（友だちたちを見ていて）男子も女子もマレーも華人も、進路にあんまり差がないと思う。

《進路展望①大学進学が親の希望、あまり興味ない本人》両親が大学に進むとより高い給料を得ることができると言って薦めたが、大学に行くことにはあまり興味がない。将来の夢は今も変わっていない。両親は女の子を大切に思う。最近物騒だから。

《進路展望②職業》もっと勉強して、将来はアカウントかスチュワーデスになりたい。アカウントの仕事は、（会計士など高度な仕事ではなく）普通の仕事があればいいと思う[おそらく希望の会計係などの意味]。

《生涯設計①結婚・子ども》結婚は26歳ぐらいでしたい。今いるボーイフレンドはやさしくて、自分のことをよくかわいがってくれる。彼はSPMを修了していて、天井を作る仕事をしている。あんまり相手の仕事が何かということは気にならない。将来も彼のような人と結婚できればいいと思う。

[両親から迫っている華人の旧正月を祝うために遊びに来るように言われるが、もう日本に帰っているからとやんわり辞退。今回のインタビューはよい関係が作れたような気がする。相手の父親、本人ともに猜疑心が強くなっていたし、またこちらも疲れていてあんまりうまく聞き出すことができなかった。帰りも、行きと同様にマリム・ナワールとカンパール間を行き来するバスに乗る。バスの停留所では、中等学校



生徒ぐらゐの男の子たち 10 数人と女の子数人、子どもづれの女性などがバスを待つ。カンパール行きのバスを待つものもいれば、イポー行きのバスを待つものもいる。バス一日 37 本 6 時 50 分～8 時、イポー往復 5 本ずつという古ぼけた時刻表がある。でも実際はそれほど本数がないように思う。]

**葛藤型** H さん 華人女子 (理系 No.29 5Sc1)

父 商売 (前期中等教育) 母 無業 (スタンダード・シックス)

ペイ・ユエン修了後、スリ・カンパールフォーム・シックス

2002 年 8 月 22 日

於：学校の進路指導室

2004 年 1 月 15 日 18 : 10～18 : 52 於：バス乗り場近く中華カフェ

### 【2002 年 8 月 22 日の面接】

《進路展望》ごく家から近いところに学校があるので、この学校を選んだ他に理由はない。できれば、フォーム・シックスに入った後にマラヤ大学に行きたいと思っている。大学卒業後は (女性に適した仕事として選ぶ) 薬剤師になりたい。

《性役割観》教育レベルが高いと経済的に安定し生活が向上するので、男性も女性も高等教育を受けた方がいい。でも、必ずしも男女役割が適しているとは限らない。もし女性に力があれば、必ずしも主婦になる必要はない。でも、両親は時々「女の子は本を読む必要ないよ (tak payah baca)」と言うことがある。

《リーダーシップと性差別》自分の家では、既に父親がリーダーシップをとることが普通になっているので、男性がリーダーに適していると思う。それでも自分に機会があればリーダーになって力を試してみたい。ほとんどない。両親の発言も特に差別とは感じていない。華人の間では、いつも男女差別がある。両親によって、男性の方がかわいがられることが多い。多分華人文化の影響もあるだろう。また、男性の方が指導力を持っており、将来的にも指導力を持つようになることが理由であるだろう。[授業中で、早く帰りたいそうにしていたので話できたのはごく短い間であった。家庭では差別がないとしながらも、時折対象者自身の家族の話に及ぶと、「性差別」的な状況に不満顔であった。自らの進路に関して、両親の発言に対抗し両親の発言を肯定しようとしているかどうかは不明。]

### 【2004 年 1 月 15 日の面接】

[1 年半とあまりに時間が経っていたので会えるかどうか不安だったが、電話で連絡をとると、以前インタビューしたことを覚えていた。学校の授業が終わってから、塾 (チューション) が 2 つあるので、それが終えた 6 時過ぎに会うことになった。約束の時間から 10 分ほど遅れて待ち合わせ場所に到着。今日筆者と会うことは特に親には話していない。]

《毎日の生活》毎日朝 6 時に起き 6 時半に朝食を食べ、7 時には学校に行く。学校はスリ・カンパールのフォーム・シックス [ペイ・ユエンからフォーム・シックスに進む生徒のほとんどがこの学校に行く]に通っている。午前中の授業が終わると、1 時には家に帰る。学校からは歩いて帰ることもあるし、父親に送り迎えしてもらうこともある [居住している場所は、ペイ・ユエンからごく近いところにある。カンパールのバスステーションから歩いて 20 分から 30 分]。月曜日から水曜日までのチューションは 1 つだけだが、それ以外の曜日は 2 コマ選択している。今日 (木曜日) は 2 コマの日なので、6 時ぐらゐにチューションが終わると家に帰って晩御飯を食べたり、テレビを見たりして過ごし、だいたい 10 時か 11 時に寝ることになる。土曜日などは 8 時ぐらゐに起き

て、8時半に朝ごはんを済ませる。1時にはバスに乗ってイポーのチューションセンターで3時の授業に間に合うようにする。授業は6時ぐらいに終わるので、またバスに乗って8時頃までに家に帰る。その後は平日と同じように過ごす。イポーにはだいたい1週間に2回ぐらい行く。

《生い立ち》1985年にカンパーで生まれる。19歳の現在まで引越しをしたことがなかった。17歳の時にSPMを受けた後、18歳の時にスリ・カンパーのフォーム・シックスに行くことになった。宗教は仏教で一日2回お祈りをしている。ペイ・ユエンの生徒の大半は仏教徒で、少しキリスト教徒もいる。

《進路の現実：SPMの結果》SPMの結果は9Aと決して悪くはなかったので、ゴペンなどのマトリキュレーションに入るよう申請したが機会を得ることはできなかった。[9Aをとっても入れないことに疑問だと筆者が尋ねると]自分でも何が理由か分からない。[面接後にホームステイ先の友人（前期中等学校教員）に聞くと、Aを取ることができなかった科目が、数学や英語など主要な科目の場合は、たとえAが多くてもマトリキュレーションに進むことができないことがあるとのこと。]

《進路の現実：フォーム・シックスか私立カレッジか、両親のすすめ》フォーム・シックスに進まず、私立カレッジに行くこともできたかもしれないが、授業料などが高すぎたので両親も薦めなかった。両親は、授業料が安くて大学に入る可能性もあるからと、フォーム・シックスに入ることを薦めた。（入る前から）自分でもフォーム・シックスが大変なのは分かっていた。STPMが今年の11月に迫っている。UMやUSMに入るのに、数学や理科の点数が重要。フォーム・シックスから大学に入ることができる可能性は、自分の印象だと10人中5人強ぐらい。

《進路の男女差》[以前「両親が女の子は勉強しなくてもいい」と言われたことがあると言っていたとたずねると]今でも少しそのように言うこともあるけれど、ほとんどなくなった。確かに兄の方を少しかわいがるところがある。でもそういう言い方をするのはもっと年代が上の人だと思う。男性と女性の差はほとんどない。

《進路展望①大学》大学に入ることができるならば、マラヤ大学やUSMなんかもいいかなと思っている。専攻はやっぱり薬学。高等教育に行くと、もっと勉強ができるし友だちもたくさんできる。より高い職業を得ることができると思う。両親もよりいい仕事に就くことができると言っている。

《進路展望①大学に入ることができない場合》万が一大学に入ることができなければ、私立カレッジに行くことになると思う[筆者が、「仮にSTPM後大学に行くことができなかつたら、20歳ぐらいで私立カレッジに入り、3年か4年を過ごすことになる。随分年齢が上になるが」と言うのと]そんな風にはあまり考えたことがなかった。[マレー人はもっと早い内に大学に入って卒業してディグリーを取る現実をどう思うかと聞くと]それはもう仕方がないと言うか、変えることができない現実だ。

《生涯設計①結婚・子ども》結婚は27歳か28歳ぐらいでしたい。それまでは仕事の方が大事だと思うから、それぐらいの年齢（で結婚するの）がいい。相手はいい仕事に就いていること、つまり自分と同じぐらいの仕事に就くか、自分よりも少し地位の高い仕事に就いていることが望ましい。それと自分をかわいがってくれて、ふるまいがきちんとしていることも大事。お酒を飲んだりタバコを吸ったり、ギャンブルをするような人は嫌。子どもは1人いれば十分。多くても2人。仕事に差し支えるから。

[第2次調査時の印象はほとんどなかったが、今回はとても話しやすかった。時間や場所、状況に応じて相手の回答も随分違うので、インタビューは回数を重ねることも、できるだけ相手の意見を聞きだす1つの方法と自覚した。]

**受容葛藤型**

Jさん 華人女子 (理系 No.24)

父 トラック運転手 (スタンダード・シックス)

母 主婦 (前期中等教育)

ペイ・ユエン修了後、マトリキュレーション

2002年8月22日

於：進路指導室

2004年1月16日 15:22-16:00 於：ファストフード店

**【2002年8月22日の面接】**

《進路展望》北京語を教えている学校なので、この中等学校を選んだ。SPMの成績が優秀な10%の非マレー人が、大学予科に入ることができるようになったので、できることなら大学予科に入りたい。その後は、医者か先生になりたい。子どもに対して教えることに興味を持っているから。最近、あまり先生になりたがる若い人は多くない。大学卒業後、本人が望む職業機会を得ることができなかった場合に、仕方なく教師になる卒業生が多いけれど（自分は先生にも興味がある）。進路に関する情報は、家族が購読している「中国報」か「The Star」から収集することが多い。

《性役割観》夫や父親になるために、教育は関係ない。同様に妻や母親になるためではなく、自分の場合は自分の興味で選ぶ。（主婦になって）テレビを見たり、料理をしたりするのだけではつまらない。一般的に、このような考え方（性別役割観）は昔の話に過ぎず、現在自分たちの世代ではこういう考え方は随分減っている。

《リーダーシップ》身体的には、男性が女性に勝っているのは変えることができない事実だと思う。恋愛をしている時は別だけれど、考え方の面でも、女性は夢見がち（romantic）で、男性は現実的だと思う。だから、仕事をする時など男性がリーダーシップをとるとよい。家では、自分もしっかりとしたリーダーシップを発揮できるような夫を選びたい。でも、その他の場面では男女の差なく、力のある人が指導者になればいいと思う。

《職業観》医者を観察する機会があったが、性別にかかわらず働くことができるという印象を受けた。教師を選んだのは、女性の方がより他人の世話をする（sayang）能力に長けているし、より我慢強い（patient）と思うからだ。男性が教師になると、給料が必ずしも高くないので、家族を養うには足りないだろう。女性の場合は、（通常半日で仕事が終わるので）家族の世話をすることができるので、女性に適していると言える。会計係あるいは会計士は、お金を取り扱うことに女性の方が適していると考えたため選んだ。例えば、家族で家計簿を預かるのは通常女性であることから想像できる。

《性差別》対象者は、5人兄弟（姉・兄・対象者・妹・弟）の3番目だが、母親の愛情は兄や弟に向かうことが多い。おそらく、将来兄弟の方が両親の面倒を見ることになるからだろう。母親の態度を父親が時々責めることがある。華人コミュニティでは、一般的に男の子に愛情をそそぐ場合が多いように思う。特に祖父母の世代ではそれが顕著であった。

[どの質問に関してもしっかりと自分の意見を持っている。男女の役割や差別に対して能力があれば克服できるという考えを持ちながら、一方で身近な家族から「女の子だから…」と活動を制限させられるという現実にも直面している。医者という「男女とも適している（と対象者が考える）」職業と教師という「女性に合う」職業とのどちらを選ぶかその過程に着目したい。]

**【2004年1月16日の面接】**

[彼女と第2次調査で面接したことを筆者自身覚えていた。既に50人近くインタビューしてきたが、以前話した人を覚えていることはあるものだ。携帯電話のSMSでやりとりをした後、会うことになる。他の友人2人と共に、カンパーのケンタッキーフライドチキンで午後2時に待ち合わせをした]

《生い立ち》1985年にカンパーで生まれる。初等学校から中等学校まで、国民型中等学校(SMJK)ペイ・ユエンに通う。

《毎日の生活》朝7時に起きて、授業に行く。授業はお昼までであり、1時間くらいに昼ごはんを食べる。それから夕方までまた授業があり、5時頃にはシャワーを浴びて6時にご飯を食べる。その後また勉強し12時くらいには寝る。

《進路の現実、マトリキュレーション、マレー人優遇政策への意見》SPM試験では10Aを取ったので、今通っているマトリキュレーションの他に幾つかの選択肢があった。たとえば、UTP(ペトロナス工科大学)やフォーム・シックスなど。JPA(Jabatan Perkhidmatan Awam)という奨学金にも応募したが、これはマレー人が優先なので10Aをとっただけでは(奨学金を得ることは)駄目だった。[マレー人が優先的なことについてどう思うかと聞くと]以前に比べて10%の非マレー人がマトリキュレーションに通うことができるようになっただけでも進歩だと思う。少しだけど。

《マレー人との生活》これまでペイ・ユエンで華人だけしかいなかったのに、マトリキュレーションで初めてマレー人などと一緒になった。90%がマレー人で、10%非マレー人。ゴペンのマトリキュレーションではできるだけ、全て(のエスニシティを)一緒にしようと試みている。最初は、マレー人の言葉のスラングが分からないこともあってとまどうこともあった。でも今は特に問題なくうまくやっている。とても友好的な人が大半だが、ごく少数は全く非マレー人を好まない人もいる。

《進路展望①高等教育》将来は、UMかUKM、USMに行きたい。一番行きたいのはUM。できれば医学部に入りたい。高等教育を受けることのメリットは、あんまり考えたことがなかったが・・・、[少し考えてから]職業面で有利になる点と、他人から尊敬される点などがある。でも高等教育を受けなかったとしても[あまり関係なく、成功するかどうかは]チャンスの差によると思う。

《進路展望②職業、医者や教師》将来は医者になりたい。でも、長い時間をかけてなれなかったらと思うと怖い。教師になることにも興味があるので、マトリキュレーションが終わってから、非常勤の教師をしてみようと思っている。姉が同じように非常勤の教師を経験していて、生徒と別れる時にいろいろ記念品をもらったのを見た。子どもたちがとてもかわいいので、私も経験したいと思うようになった。確かに教師は給料もあんまり高くないし、最近の子どもは、教師という職業を少し見下すところがあるけれど、おもしろい職業だと思う。

《進路展望②医者以外の道》医者になるには、19歳から5年の時間がかかる。その内3年目には実習に行く。薬剤師になるという道もある。薬剤師の方が、医者よりもプレッシャーが少ない。もし公立(政府の)病院に勤めたら、医者と薬剤師の給料の差は、わずか200RMで、医者でも1ヶ月2000RM強の給料しかもらえないそう。そう考えると薬剤師も悪くない。これもスター(新聞)に書いていた。

《両親の助言、友人の励まし》両親は自分の好きなようにしていいと言ってくれる。両親の教育レベルがあまり高くないので、あんまり具体的に協力してくれるということはないが、医者になることにあんまり心配しすぎないようにと勇気付け励ましてくれる。友だちとは将来の夢を語り合うことがある。

《生涯設計①結婚、子ども》結婚は…27歳から28歳、少なくとも30歳ぐらいにはしたいと思っている。以前、32歳以上で子どもを生むのは体によくないと書いた論文を、スター新聞で読んだことがある。それを信じると結婚は30歳ぐらいまでにはしたくない、と思う。医者の仕事が、出産や子育ての休暇があればいいけれど [「あると思う」と勝手な助言をしてしまった。] 子どもは3人か4人、男の子か女の子は気にしない。

《生涯設計①夫、リーダーシップ》家庭でのリーダーシップは、夫か自分かどちらがとるというのではなく、常に議論をしていきたい。夫は、好きなものが一緒に、趣味が似ていて、私を愛してくれて、子どもの世話をしてくれる人がいい。仕事と教育(のレベル)が両方自分と同じぐらいだといい。

《マレーシア社会の男女差》以前男性が現実的で、女性が夢見がちだと言っていたがと聞くと]ほとんどの人がそうだと思う。でもインドネシアやフィリピンなど、女性が大統領になっている国もあるから、いつかマレーシアでもすごく才能のある人が出れば、女性もリーダーになることもあるだろうな。でも、今のところ、マレー人とか華人とか関係なく、インド人は友だちがいないので分からないけれど、政治の分野で女性が活躍するのには、マレーシアではまだ難しいと思う。

[はっきりとした自分の意見がある。その多くは新聞から得た情報のようである。成績優秀で将来に様々な可能性を有しており、華人エリートの中で新しい典型的ケースとなりうるかもしれない。]

#### 受容葛藤型

Kさん 華人女子 (理系 No.27 5Sc1)

父 自動車販売(前期中等学校) 母 主婦(前期中等学校)

ペイ・ユエン修了後マトリキュレーション

2002年8月22日

於:学校の進路指導室

2004年1月16日 14:17-14:49 於:カンパーファストフード店

#### 【2002年8月22日の面接】

《進路展望》北京語を学ぶことができるので、現在の中等学校を選んだ。卒業後は、できることなら、シンガポールに留学したいと思っている。その後、薬剤師になりたい。(女性に適した職業として選んでもいる)将来について父や母と話すことがあるが、彼・彼女は知り合いの成功談を話す。

《性役割観》自分が夫として選ぶのであれば、自分と同じように高等教育を受けた男性の方がいい。自分と同等であってほしい。若い世代は、力があれば家庭だけでなく外で働くことも問題にはならないので、性別役割観には全く賛成しない。

《リーダーシップ》男性か女性かということよりも、その人の能力を見る必要がある。

《性差別》家庭で「時々差別がある」を選んだのは、自分の弟の方に教育のみならずあらゆる活動を優遇するから。華人の老人(orang tua)は、「女の子は、教育を受ける必要がない」と言うことが多い。

[会話の途中で中国語が混じり、マレー語があまり得意ではないようだ。緊張した面持ちだった。]

#### 【2004年1月16日の面接】

[家庭で男の子と女の子とで差別があると言っていた。第2次調査時はあまり時間をかけて話すことができなかつたし、マレー語がそんなに得意ではない印象があった。だが、第3次調査時に、彼女は人見知りするタイプなので、第2次調査時にあまりうまく話せなかつたが、実際は言葉の問題ではないことを知る。それほどスムーズにイ

インタビューは進行した。「今回は2回目だから少しリラックスして話せるといいな」と  
筆者が言うと、少し笑って話し始めた。]

《生い立ち：華人のアイデンティティ》カンパーで生まれ、アエー・クニン (Air Kuning) で育つ。カンパーから車で15分ぐらい行ったところで、バスで行くともう少しかかる。初等学校はアエー・クニンに通ったが、親が華人は華語を学ぶべきだと考えていたため、中等学校からペイ・ユエンに行くようになった。華語を習うことができるからペイ・ユエンに行かせるようになったと思う。でももし親が英語を重要視していたら近くのSM Methodist ACSに行かせただろう。英語は国際言語で、職業機会が広がる言語と認識しているから。

《毎日の生活》毎朝7時30分に起き、7時40分に朝ごはんを食べ、8時にクラスに行く。12時から2時の間はご飯を食べたり少し休憩をしたりする。授業を終え4時頃には寮に帰る。その後5時ぐらいまで少し仮眠をとって、7時に夕飯を食べる。夕飯後は12時ぐらいまでか、遅い時には2時ぐらいまでその日の復習をする。シャワーを浴び床に入るのは深夜を過ぎる。イポーには、1ヶ月1回ほど行く程度だ。

《SPMの成績》SPMは9Aをとった。ゴペンの講師が、[マトリキュレーションに行くことができるかどうかは、単に] Aの数だけではなくて、どこに住まいがあるかということが重要視される。とりわけ農村地区に住んでいる人は優先されると言っていた。17歳の時SPMを受け、18歳でマトリキュレーションに入った。本当は[中等教育修了後に] 3つの選択肢があったが、マトリキュレーションに行くことを選んだ。

《進路の現実：マトリキュレーション》ゴペンのマトリキュレーションには、2000人通っているがその内153人が非マレー人。10%非マレー人が選ばれたが、実際には8%ぐらいしか入学しなかった。入学しなかった人の行き先はあまり定かではないが、たとえば留学などのケース、私立大学に通うケースなどがある。マトリキュレーションの授業料は自分で受領書を持っていたので分かる。入学時に600RM (試験代など含む) 払って、第2セメスターには、120RMを払う。ただし、毎セメスター1000RM ずつ補助がある。

《マトリキュレーションの大変さ》フォーム・シックスでは2年で終える内容を、マトリキュレーションでは1年で勉強しないといけないからなかなか大変。生徒を選抜する大学側が、フォーム・シックスで学ぶことができる科目を好む場合があるので、(大学に進学するのに) 一概にマトリキュレーションをいいとは言えない。

《進路展望①高等教育》大学はUMの薬学部に行きたい。もし大学に行くことができなければ、教師ぐらいにしかねれないと思う。以前はシンガポールに留学したいと思っていたが、Alevel か STPM を受けた生徒のほうが、[留学するのには] 有利なので叶わないだろうと思う。

《進路展望②職業：医者でなくて薬剤師、女性向の職業》大学卒業後は、薬剤師になりたい。医者になるには、5年間プラス2年から3年かかるので、長く勉強しないといけないから自信がない。[以前、薬剤師はより女性向の仕事と言っていたと聞くと] 確かに男性の方が、多く医者になりたがると思う。薬剤師はいろんな人とたくさん話すというよりは、薬と向き合っていればいいだけなので女性にはいい。

《親の希望》[以前、家族の中で弟をかわいがる傾向があると述べていたが] 実際には、母親が私を、父親が弟と年の離れた妹をかわいがる。父親は、私が医者か薬剤師になるといいと思っている。母親からそれほど具体的な助言はないが、仕事を持って生活が大変でならないようにできればそれで十分だと思っている。

《生涯設計①結婚、子ども、リーダーシップ》28歳から30歳ぐらいで結婚できれば

いい。出産のことを考えてそう思う。家の中でどちらが主導権を握るかは、結婚前にたくさん話し合っておきたい。どちらがリーダーシップをとってもいいけれど、もし男性が家長になった場合、私のことをできれば尊重してほしい。夫になる人には、あらゆる面でしっかりとした選択をしてほしい。たばことギャンブルはだめ。

[華人アイデンティティを大事にする家に育ったため、国民型学校で華語を学ぶ教育を受けてきた。マトリキュレーションという新しく華人に開かれた教育機会に対して喜びながらも、その大変さも感じている。大学を卒業した後は、できれば薬剤師になりたいと思っている。医者よりも薬剤師の方が女性向と考えていることが一つの理由である。以前より話しやすかった。ゆっくり話すことができ嬉しかったのでまた話を聞きたいと伝えると喜んでくれた。]

#### 受容葛藤型

Lさん 華人女子 (理系 No. 37)

父 労働者 (前期中等教育) 母 主婦 (前期中等教育)

ペイ・ユエン修了後、マトリキュレーション

2002年8月22日

於：学校の進路指導室

2004年1月16日 14:51-15:20 於：カンパーファストフード店

#### 【2002年8月22日の面接】

《進路展望》家族の意見で、北京語を教える学校なのでこの学校を選んだ。もし可能であれば、オーストラリアに留学したいと思っている。家族はコストがかかるのを心配している。理科の中でも科学が好きなので、理学部を選びたい。でも、大学卒業後は社会でニーズが高い、スチュワーデスになりたい。友達と進路に関して話すことが多い。家族だと進路に関して命令されてしまうから友達の方がいい。

《性役割観》男性は、高等教育まで勉強を続ける方がいい。卒業後すぐに就職するよりは、女性も高等教育まで勉強を続ける方が重要だと思う。その理由は、女性も「独立」する必要があるからだ。女性も主婦だけではなく、家の外の人と交流することが大切だと思う。もちろん台所で家事をするのも女性の仕事としていいと思うが、もし本人が望むなら (suka-hati) 男性も女性も外で働くことが可能だと思う。

《リーダーシップ》権力を持つ力 (kuasa) を持っているから、男性の方が女性よりもリーダーシップをとるのに適している。でも、もし望まれるなら会社で自分がリーダーシップを持ってもいいと思う。

《性差別》華人コミュニティの間では、特に上の世代 (golongan tua) が男女の差別をする傾向にある。

[とても話しやすい。お兄さんはUMに在籍しているとのこと。女性が能力を家庭外で能力を発揮することにはとても積極的に意見を述べるけれども、リーダーシップに関しては男性優位に賛成である。自身の進路選択に関しては、今のところ特に性別の制約を感じてはないようである。]

#### 【2004年1月16日の面接】

[今回E型の3人集まってもらうのに際して、約束のアレンジは彼女自身の携帯電話を通じて行った。第2次調査の際には、華人に典型的な進路の一つである留学をしたいと言っていたが、現在はどのような将来の展望を抱いているだろうか。]

《毎日の生活》7時に起き8時には学校に行く。午前の授業の後12時30分に昼ご飯を食べてまた授業を受ける。午後の授業の後には5時ごろにシャワーを浴び、6時に晩御飯を食べる。遅い時には、夜中の2時ぐらいまで復習をする。

《生い立ち》カンパーで生まれた。カンパーのバスステーションからはバスで10分ぐらいのところの、カンボン（村）に家がある。初等学校からペイ・ユエンに行っている。[ペイ・ユエンに行くことになったのは] 兄や姉が既に行っていたからだと思う。

《進路の現実：SPMの結果、農村地区に居住》SPMは6Aをとった。[筆者はAの少なさにとても驚いてしまい一時言葉を失う。気を取り直し、どの教科でAをとったかを聞くと] 数学・応用数学・科学・物理・マレーシア語・モラル教育の5つ。Aをとるためには、だいたい70%得点することとされている。6Aでもマトリキュレーションに入ることができたのは、農村地区（luar Bandar）に住んでいるからだと思う。

《マトリキュレーションに入ることの幸運と不運》 新しく華人が10%ほどマトリキュレーションに入ることができるようになった制度を幸運だと思う反面、友だち（華人）の多いフォーム・シックスでなくて、マレー人が多いマトリキュレーションに入ることになった自分を不運だとも思う。

《進路展望①高等教育》 大学はUMに行きたい。生物が好きなので薬学部に行こうと思っているが、まだ（具体的には）あまり固まっていない。以前シンガポールに留学したいと思っていたが、英語ができないので今は難しいと思っている。大学に入るとより高い仕事に就くことができる。でもあんまり大学に入ることの意味について考えたことはない。

《生涯設計①職業》 医者は責任がとても大きい（職業な）のでなりたくない。前はスチュワーデスになりたいと思っていた。でも将来の仕事について、まだほとんど考えたことはない。スチュワーデスになれるなら今でもなりたい。

《生涯設計③結婚》 26歳か27歳で結婚したいと思う。自分と地位が同じぐらいで、やさしくて、自分自身を高めることができる人（majukan diri sendiri）がいい。

《リーダーシップ》 家庭でのリーダーはどちらもなることができるが、社会でのリーダーは男性の方が勝っていることが多いので、女性になるのはまだまだ難しいと思う。

《道教》 家の宗教は道教だが、道教の教えはただどうすれば人がよくなるかということだけを述べるだけで、男女の関係についてはあんまり何も言ってない。お祈りは1日に3回する。お祈りの方法は仏教と見分けをつけるのは難しい。でも道教は菜食主義でなく、肉も食べることができる。

《生涯設計③子ども、親の教育》 子どもは、男の子1人と女の子2人の計3人ほしい。女の子の方が、自分が女の子なので理解しやすい。自分の兄弟も兄が1人と姉が1人いて、私の理想と同じ。（比較的）父親が姉をかわいがって母親が兄をかわいがる。（それぞれ）多分1番目の子どもだから（かわいがるの）だと思う。（でも）自分のことも末っ子だからかわいがってくれる。

《華人文化と子ども》 [以前華人の間では、男の子をより大事にする傾向があると言っていたが] 多分、文化的な伝統（warisan）によるだろう。自分も男の子を大事にすることには賛成する。多分キリスト教の家庭だったらあんまり男の子と女の子の差はないと思うが。クラスには5人ぐらいキリスト教の子がいた。でも、あんまり宗教的なことと、男の子を大事にすることと関係ないと思う [やや矛盾したコメント]。

[第2次調査時（2002年）に、フォーム・ファイブの理系クラスで最も成績のいいクラスに在籍していた生徒の内、ゴペンに新しくできたマトリキュレーションに通い始めた女子生徒3人（E型）にインタビューした。

第1次・第2次調査の時点では、華人がマトリキュレーションに通うことができるとは想定していなかったため、現時点では典型例から外れた「例外」であるとも言え



る。しかし、フォーム・シックスや私立大学・カレッジなど、華人にとって典型とされる進路（トラック）ではなく、今後増えることが予想できる例外を通じて、生徒自身が自ら望んで選んでいるように見えた進路（フォーム・シックスや私立大学・カレッジ）が、単に政策によって決められていた現実を受け入れていたのに過ぎないことを裏打ちできたとも言える。

先行研究では、マレー人と華人の中等学校卒業後の進路が、あたかもそれぞれの選好に基づくかのように説明されることもあった。ところが、政策によるトラックの境界線が外れ、これまで華人が進むことはほとんど不可能であったマトリキュレーションという進路に、華人が進むようになった。この新しい事実を踏まえて、今後従来マレー人にふさわしいと考えられたトラックに華人が増えていくこと、またその逆も予測できる。

